

鎮西上人特輯號發刊餘言

前 田 聽 瑞

わが淨土正統第二祖と崇められる聖光上人を讚美する言葉は數多く語られたであらうが、元祖法然上人が「源空が所存、皆御邊に申し畢んぬ。此外に若し所存あらば、梵釋四王を以て、其證を爲し、必ず其爵を請け奉るべし」の墨付の一言程簡潔に然かも遺憾なく聖光上人の全幅を稱へた言葉はないであらう。誠に聖光上人は一宗優良の學匠、正義傳持の雄鎮であつた。聖光上人は「我大師釋尊はたゞ法然上人なり」と信じ、常に最も高い調子で口稱念佛の正義を顯彰し、以て駭目すべき偉大なる影を投げかけた巨聖である。身に選擇の傳を膺し、舌に廣長の辨を奮つた法然上人第一の神足、周く有漏城の衆生を導き、無量壽の淨域に躋らしめた末代念佛の龜鑑、九品淨土の棟梁、これが聖光上人の姿であつた。この意味に於て吾々は聖光上人に學ばねばならない點が頗る多い。今や宗門の機運は「鎮西もの」の再檢討に向つてゐるが、「鎮西もの」に關する限り、手頃な、纏つた入門書が少くない様に見受けられる。今茲に發刊を企てたる「鎮西上人特輯號」は一にこの宗門一般の要求に應ぜんがために外ならぬ。たゞこれによつて洽なく「鎮西もの」の再檢討、新研究の機運を増長するやうな結果になれば發刊の目的は達せられたのである。

尙、本號發刊に際して、吾が文書部の乞を容れてこれが執筆を受諾せられた佛教専門學校教授諸君並に關係者各位に深甚なる謝意を表する。特に本號發刊の發案者であり同時に出版部長の責を負ふてゐる自分が、期限のある論講に筆を進めねばならなかつた關係上、本號に一文を寄せ得なかつたことは衷心慚愧に堪えない。

本號口繪の寫眞版については鎮西中學校校長五島法眼氏並に本校教授定惠苗氏の盡力に依る所が多い。茲に之を特筆し

て厚く謝意を表する。

終りに、本號の校正その他の仕事は私の下に文書部の理事であつた高津量海君その他の諸君の勞に待つた。各理事諸君に對して感謝の意を表して置きたい。

佛教專門學校出版部

部長
理事

文	加	高	浦	中	高	前
野	藤	山	上	西	津	田
寬	寬	龍	博	信	量	聽
幢	照	天	心	雄	海	瑞